

アユの緊急資源対策について

1. アユの緊急資源対策

(1) 経緯

- ・ 8月のアユ魚群分布調査^{*}では、例年の産卵量が見込める親魚魚群を確認していた。

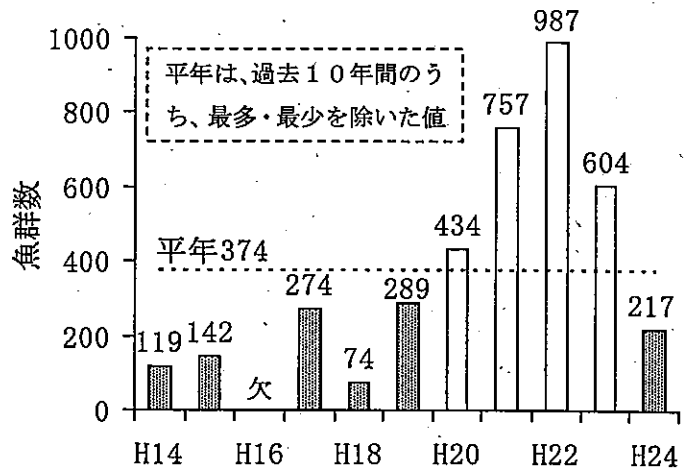
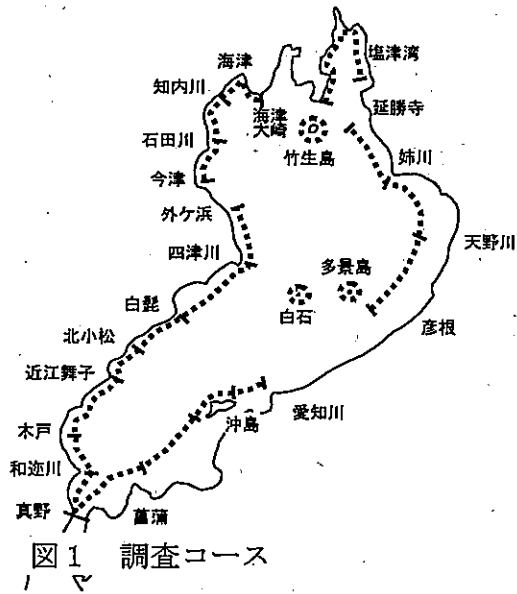
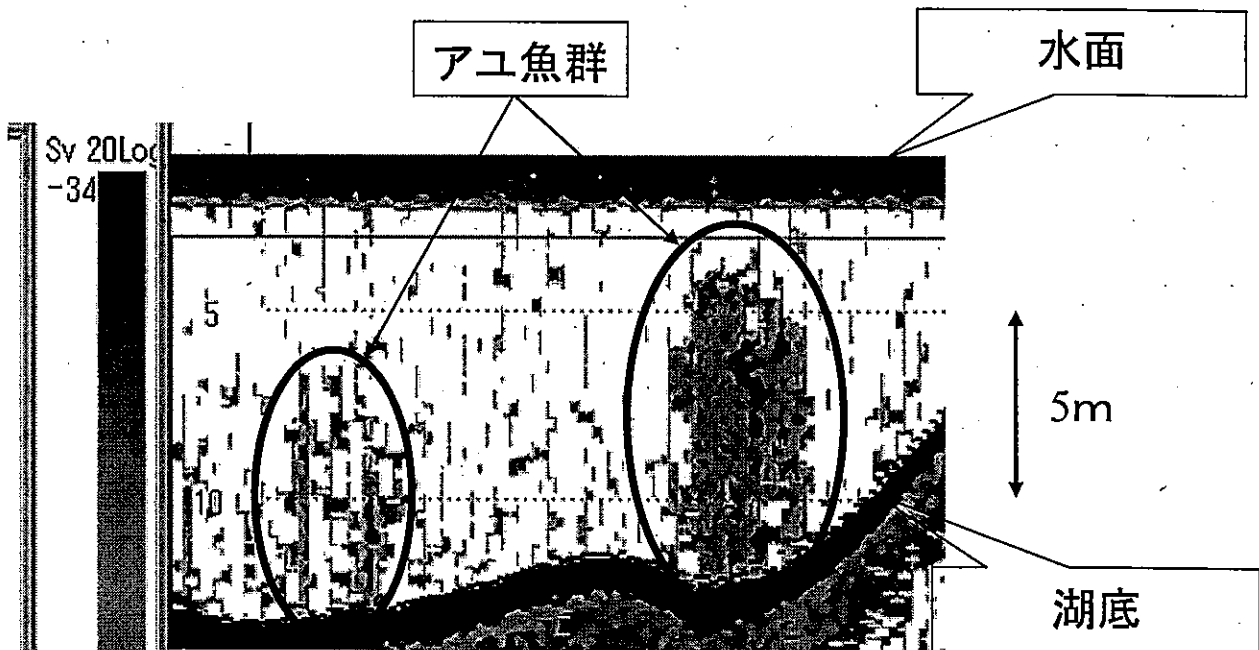


図2 8月の魚探調査結果の経年変化

^{*}琵琶湖丸に搭載している魚群探知機を用いてアユが多く分布する水深30mの魚群を計数

(魚群探知機でのアユ魚群の映像)



・今年のアユ産卵調査※では、県内の主要天然河川におけるアユの産卵量が10月11日時点で6.8億粒(平年約113億粒)に留まっていた。

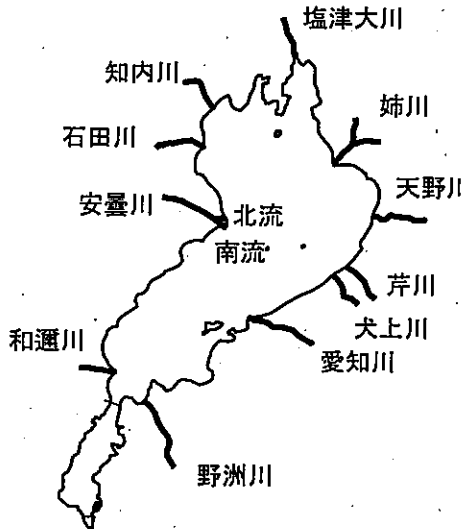


図3 調査河川

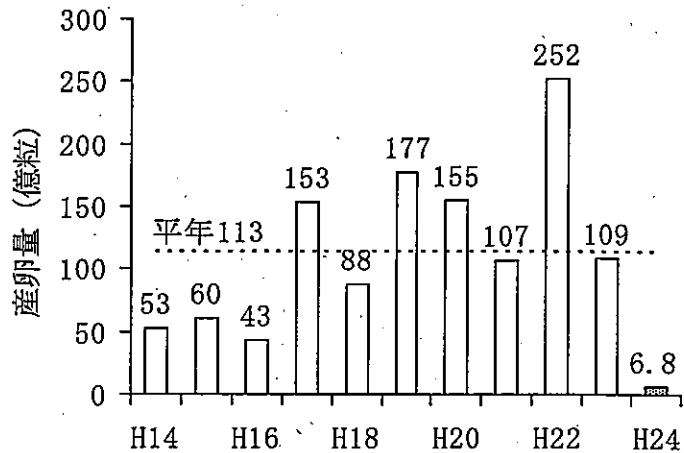


図4 天然河川産卵調査結果の経年変化

※河川の河床の砂利に産み付けられた卵を計数し、産卵面積を確定して算出

・アユは琵琶湖漁業の漁獲量の約半分を占める重要な魚種であり、来期のアユ漁業や来年のアユの産卵が不安視されていた。

(2) 対策

- ・アユ資源の安定化対策として、毎年、安曇川と姉川の人工河川に養成親魚を放流して産卵させている(親魚量13.8トン、ふ化仔アユ流下量22.5億尾)。
- ・今回の緊急対策では、安曇川人工河川に、滋賀県淡水養殖漁業協同組合から購入した7トンのアユ親魚を追加放流した(10月15日~26日)。

人工河川	安曇川	姉川
場 所	高島市安曇川町北船木	長浜市びわ町南浜
産卵床水路	7.3m×653m	3.0~6.0m×193m
建 設	昭和54~55年度	
用 水	取水口が水深5mおよび20mにあり、水を混合することにより産卵に最適な水温(18℃)に調整	

・経費は約1,200万円で、滋賀県漁業協同組合連合会が4分の1を負担する。

(3) 期待される効果

・この追加放流で、14億尾のアユふ化仔魚が琵琶湖に流下すると試算され(11月下旬に産卵が終了する予定)、約50億尾の流下があると推測されることから、約300トンの漁獲量につながるものと考えている(過去3年のアユ漁獲量555~683トン)。

追加放流での流下量 : 14.0億尾
 通常的人工河川からの流下量 : 22.5億尾
 天然河川での流下量 : 14.2億尾※
 総流下量 : 50.7億尾 ≒ 50億尾

※現在までの産卵量は7.1億粒であるが、調査では卵の見落とし等があるため、産卵量の2倍のアユが琵琶湖へ流下することが、過去の調査でわかっている。

- ・また、養殖用や河川放流用の種苗となるアユ苗の漁獲量は確保されるものと期待している（過去3年のアユ苗漁獲量41～100トン）。

アユ漁業のシーズン

漁法	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
エリ	種苗		種苗	種苗	種苗	種苗	種苗	種苗	種苗
沖びき網			鮮魚	鮮魚	鮮魚	鮮魚	鮮魚	鮮魚	鮮魚
刺網					鮮魚	鮮魚	鮮魚	鮮魚	鮮魚
追いさで網					種苗	種苗	種苗	種苗	種苗
ヤナ				種苗	種苗	種苗	種苗	種苗	種苗
沖すくい網							鮮魚	鮮魚	鮮魚

※ 12月の漁獲を早期漁獲という

※※ 近年、12月にエリで鮮魚を漁獲する場合もある

- ・例年、総流下量に占める人工河川からの流下量は約1割であるが、今年は、7割程度となる見込みである。

2. 資源状況

(1) 産卵調査

- ・県内の主要河川における今年のアユ産卵量は、11月7日時点で7.1億粒（平年約11.3億粒）に留まっている。

(2) アユ稚魚分布調査*

- ・琵琶湖でのアユ稚魚の生息状況は、10月の調査では、一網あたりの採捕量が平年の約26%（23尾）であった。

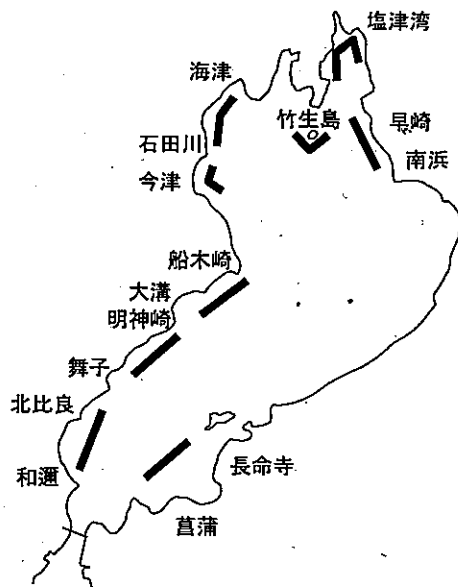


図5 調査コース

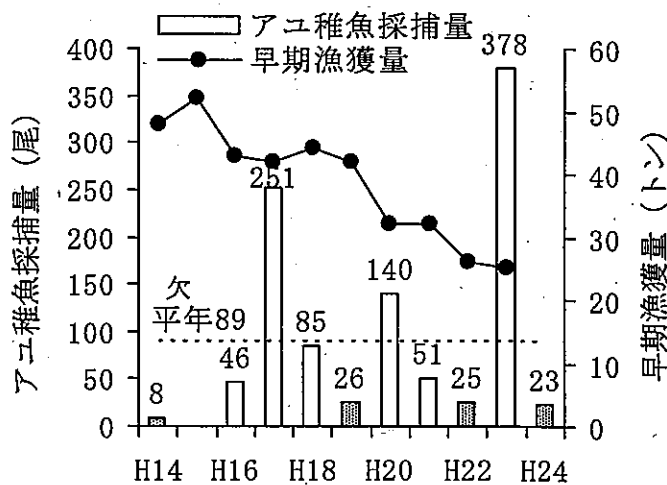


図6 10月のアユ稚魚分布調査結果の経年変化
※琵琶湖丸でアユ稚魚採集用の網を一定距離曳いて採れたアユ稚魚の尾数を計数

- ・11月の南浜から今津までの調査では、一網あたりの採捕量が平年の約45%（29尾）であった（速報値）。

H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	平年	H24
20	15	56	11	33	18	41	90	245	371	65	29

3. アユ産卵量減少の要因説明

要因については、通常の調査範囲以外の場所（河川の上流や琵琶湖の水深1.0m前後の湖底）で産卵したり、食害を受けたりして死亡したことなどが考えられる。

今後、水産試験場で、今年生まれのアユ稚魚の分布調査、産卵期前のアユの栄養状態を把握するための標本分析などを行い、要因の解明に努める。

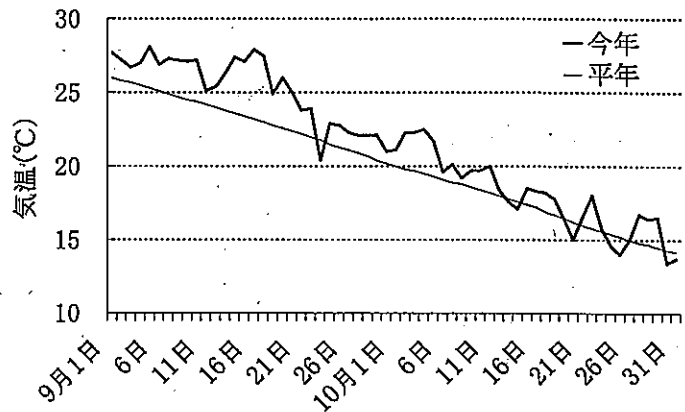
今後の調査予定

- ・ 11月と12月の中旬に、アユの稚魚分布調査を実施
- ・ 今週から12月頃までにかけて、産卵期前に収集したアユのサンプルを分析

(参考)

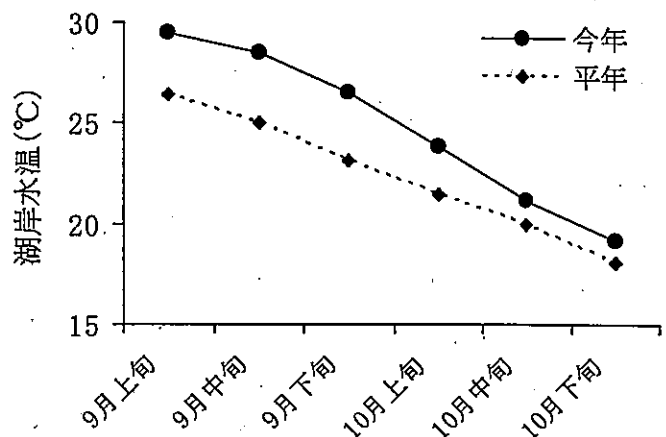
①彦根の気温（気象庁）

- ・ 9月の平年気温は、1898年の統計開始以降で最高であった。
- ・ 今年9月の平年気温は平年を1.9℃上回った。



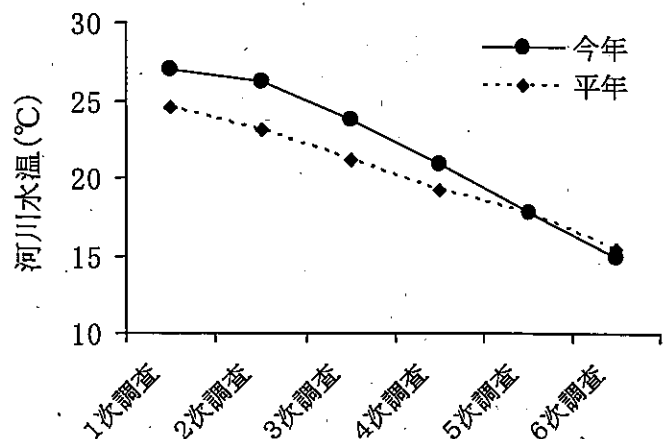
②彦根の湖岸水温

- ・ 9月の湖岸水温は平年より3.1℃から3.5℃高かった。
- ・ 10月の湖岸水温は平年より1.2℃から2.3℃高かった。



③アユ産卵河川での調査時の水温

- ・ 1次調査から4次調査まで（8月下旬から10月中旬）の河川水温は平年より1.6℃から3.1℃高かった。
- ・ 5次調査と6次調査（10月下旬と11月上旬）の河川水温は平年並みとなった。



※ 8月下旬に1次調査を行い、その後、約2週間おきに調査を実施